

学校名 品川区立豊葉の杜学園

執筆者名 山畑 朗子

研究タイトル	生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質能力 ～音楽科、市民科、社会科の教科等横断的な学び～		
① 育てるべき資質や能力・・・自分で設定した将来を担う子どもたちを育てるべき資質や能力について、その必要性を踏まえて記述する。	ページ No	1	
主に育成すべき資質/能力のキーワード	生活や社会の中の音や音楽と豊かなに関わる資質・能力、 探究的な学習、教科等横断的な学び、E S D教育		

主題設定の理由と育てたい子どもの姿

私たちの生活や社会の中の音楽といえば、その一つが校歌ではないだろうか。例えば、自分が卒業した学校の校歌は何年経っても覚えていて、たまに同窓会で歌うと仲間と過ごした思い出がよみがえってくる。入学式や卒業式等の儀式的行事に必ず歌われ、私が経験した小学校では卒業生が最後に校歌を保護者と共に泣きながら歌う場面が印象に残っている。コロナ禍においては音声のみを流し合唱を控えることも多くなってしまったが、その学校を象徴し儀式で演奏される曲であることに変わりはない。

昨年、まん延防止等重点措置が解除されたことを受け、久しぶりに終業式で全校児童生徒がアリーナに集い校歌を歌う場面があった。元気いっぱいの1年生から逞しい9年生までの子どもや教職員の歌声が一斉に響き、空気を介在して会場が一体感に包まれた。久しぶりの全校合唱であったからかもしれないが、歌うことを通してその場にいる全員が歌詞の内容を共有できるということに、改めて歌のもつ力に感動を覚えた。

校歌とは何であるかを考えてみると、同じ場所同じ時間を共に過ごす仲間と共に開校から長い年月を経て歌い継がれるものである。卒業生ならば世代を超えて誰もが歌える歌であり、歌詞には地域の自然や産業等、各地域の特色が盛り込まれている。本校は4校の小中学校が統合し開校した義務教育学校であり、本年度は開校10周年を迎える。その中の1校は明治12年から開校し、当時の校歌が現代に至るまで歌われ続けてきたことを考えると、儀式的行事で校歌を斉唱することは日本の音楽文化の一つではないかと感じている。歌詞には「荏原」「二葉」「戸越の森」などの地名が入っていて、緑が豊かな地域であることがうかがえる。4校の歌詞を見比べながら、当時はどんな町並みであったのか、どのような学校生活を送っていたのかと想像を巡らすこともおもしろい。

音楽科で育てたい資質・能力は、生活の中の音や音楽と豊かに関わることである。小学校学習指導要領解説（平成29年告示）音楽編には音楽を学ぶ意味が明確になっており「わたしたちの生活を育む社会の中には、様々な音や音楽が存在し、人々の生活に影響を与えている。したがって、生活や社会の中の音や音楽と豊かにかかわる資質・能力を育成することによって、子どもが音や音楽との関りを自ら築き、生活を豊かにしていくことは、音楽科の大切な役割の一つである」としている。そこで、子どもにとって身近な校歌を教材とし、学校の歴史や地域の特色を調べて発表し合う探究的な学習を提案する。生活を豊かにしていく上で、音や音楽との関わりを自ら築くための方法を学ぶ一助になればと考えている。さらに、地域の歴史を学ぶ4年生社会科や郷土の文化伝統を学び継承することを内容とした4年生市民科単元名「品川博士への道」との関連を図り、教科横断的な学びとして年間指導計画に位置付けた

カリキュラムを作成する。いずれも単独の教科で完結する学びではなく、身に付けた知識を幅広く活用しながら生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質能力を育てて行きたい。

上記のことをふまえ主題を「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質能力～音楽科、市民科、社会科の教科等横断的な学び～」とした。目指したい子どもの姿は「生活や社会の中の音と豊かに関わり、探究的に学ぶ子ども」とする。

② 子どもたちの現状・・・子どもたちの置かれている環境や状況、学習レベルなどを客観的に把握することによって収集した情報に基づき、子どもたちの現状について記述する。	ページ No	2
--	--------	---

地域とともにある音楽

品川区立豊葉の杜学園は、東京都品川区二葉にある義務教育学校である。荏原第三中学校、荏原第四中学校、杜松小学校、大間窪小学校が統合し、平成 25 年に品川区立小中一貫校として開校した。豊葉の杜学園の校歌には、統合した四校の校歌の語句が一節ずつ挿入されている。緑豊かな地域で、学校のすぐ隣には下神明天祖神社があり、時おり境内で演奏されている雅楽の調べが聴こえてくる。縁日や神明雅楽などの行事もあり、生活や社会の中の音や音楽との関わりという視点から見ると音素材に恵まれた環境である。また、子どもたちは地域のイベントで「品川音頭」を踊る機会が多く、振り付けを覚えている子がほとんどである。5 年生音楽科の授業（題材名「日本の民謡をたずねて」）の導入で品川音頭を取り上げると、何人もの子どもが踊りたいと手を挙げ音楽室がちょっとした盆踊り会場になった。

品川音頭は昭和 53 年に制定され、歌詞には荏原、品川、大崎、大井の 4 つの地名が入っている。当初は品川区に八潮という地名がなかったため歌詞には記されていなかった。昭和 55 年に八潮の地名が誕生し、昭和 58 年には八潮団地が街開きした。その後、八潮という地名を新たに品川音頭の歌詞に挿入してほしいという住民の要望を受け、平成 29 年に改正された。品川ネット TV には品川音頭改正に向けた取組と、八潮をいれた新しい品川音頭のお披露目までの軌跡が編集されている。その動画を見ると、八潮に住む人々の品川音頭に対する思いが伝わってくる。この学習を通して子どもは、人々がその地域の民謡を大切にする気持ちは自分たちの品川音頭を思う気持ちと同じであるということを知り、各地方の民謡もそれぞれのよさや味わいを見つけながら興味関心をもって聴くことができた。また、世界の民族音楽を鑑賞した際も、聴ききれない音色や旋律に驚くこともあったが、その国の人々が大切にしている音楽であることに気付き、多様な文化を尊重することを学んだ。

このことから、本校の子どもは生活や社会の中の音や音楽に関わる機会が多く、品川区が好きという気持ちが育まれているように感じている。区の実践としては、平成 27 年度より「わ！しながわ」というキャッチコピーで区の魅力を全国に発信し、住み続けたい、住んでみたいと思える街づくりに力を入れている。また、品川区独自の教科「市民科」では、「特別の教科道徳」や「特別活動」「総合的な学習の時間」を統合したカリキュラムを展開し、義務教育 9 年間を通して「教養豊かで品格ある人間形成」を目指している。

下神明天祖神社 HP から引用

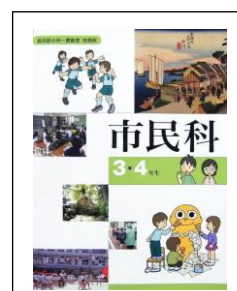


「わ！しながわ」のロゴマーク

品川区 HP からダウンロードでき、

ロゴを張り付けて品川区

魅力を発信できる。



③ 教育支援の方針・・・収集した現在の情報に加え、過去の実践経験や知見（失敗）なども踏まえ、教育支援の方針を記述する

ページ No

3

昨年度、4年生の立志式（二分の一成人式）に向け、市民科と音楽科で教科横断的な取組を行った。単元名は「命の大切さ 人間が生きていくということ」音楽科では「わたしたちの表現」である。市民科の授業を参観して印象的であったのが、命を大切にすることと授業時間だけではなく、実際の生活、例えばインターネットで命を粗末にしている場面を見たらどうするか、というところまで考えることができるようにした点である。子どもは、生きている自分や他者を大切にすること意識や行動についてワークシートにまとめ、その内容は立志式で群読と合唱「いのちの歌」で発表した。残念ながらコロナ禍により本番の合唱は事前に録音したものを流すことになったが、それでもこの取組は大変意義のあるものであった。

第一に、市民科の学習を通して「いのちの歌」の歌詞に対し子どもが自分なりの思いをもって歌うことができた点である。これは「手のひらを太陽に」のような具体的で分かりやすい歌詞とは異なり、冒頭から生きていくことの意味を問う内容である。抽象的な歌詞からどのように歌いたいイメージを膨らませるのは難しいが、子どもは市民科で命の大切さについて考えていたので、歌詞とのつながりを感じ取って主体的に歌おうとしていた。ここでの主体的とは、自分なりの思いや意図をもち、どのように歌うかについて表現を工夫しようとする点である。音楽の授業で、ある男の子の歌い方が変わってきた。普段は元気で元気いっぱい、この曲も始めは「手のひらを太陽に」と同じくらいエネルギッシュに歌っていたのに、やさしくなめらかな歌声に変わり「亡くなったおじいちゃんを思い出した」とうっすらと涙をうかべる場面があった。これは市民科で、命の大切さについて自分の考えをもったからこそ、歌詞と向き合いどのように歌うか思いや意図をもつことができたといえる。

第二に、市民科での学びが、音楽科の知識・技能の活用につながったことである。それまでは、カラオケで歌う時のように自分の声しか聞かずに歌う子も多かったのであるが、この曲を通して、友達の歌声を聴いて合わせて歌おうとするようになった。自分や他者を大切にすること意識や行動について考えワークシートにまとめたことが、実際の合唱活動でみんなの歌声を大切にすること行動に移すきっかけとなり、音楽科の目標である協働して音楽活動をする楽しさへとつながったといえる。

いのちの歌 Miyabi 作詞

生きてゆくことの意味 問いかけるそのたびに
胸をよぎる愛しい 人々のあたたかさ
この星の片隅で めぐり会えた奇跡は
どんな宝石よりも 大切な宝物

泣きたい日もある 絶望に嘆く日も

そんな時 そばにいて 寄り添うあなたの影

二人で歌えば 懐かしくよみがえる

ふるさとの夕焼けの 優しいあのぬくもり

本当にだいじなものは 隠れて見えない

ささやかすぎる 日々の中に かけがえない喜びがある

いつかは誰でも この星にさよならを

する時が来るけれど 命は継がれてゆく

生まれてきたこと 育ててもらえたこと

出会ったこと 笑ったこと

そのすべてにありがとう

この命にありがとう

教育支援の方針

このように、市民科と音楽科で教科をつなげた取組は、他の教科においても同様に考えることができる。小学校学習指導要領総則 第2教育課程の編成には「各教科の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする」とあり、教科で学んだことが他の教科でも活用できること、教科同士のつながりを意識した教科横断的なカリキュラムを立てることが求められている。また、学習指導要領前文には「多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする」と書かれ、E S D教育が推進されていることがわかる。E S Dとは Education for Sustainable Development の略で、持続可能な開発のための教育である。2015年の国連総会で採択された持続可能な開発のための2030アジェンダで、2030年までの国際社会の持続可能な開発目標SDGs（Sustainable Development Goals）を定めている。17のゴールと169のターゲットがあり、教育は第4番目のゴール「質の高い教育をみんなに」と位置付けられている。E S DはSDGs達成に貢献する教育であり、社会の在り方や自分と社会の関係についての価値観と行動の変革を促している。

本校では、今年度からE S D推進部という校務分掌ができた。今年度の取組は、各教科・市民科でのE S D取組例を集めカリキュラム表を作成し、来年度より、教科横断的な取組を計画・実施するとしている。E S D教育と従来の教育との違いは、理解だけではなく行動の変革までを求めているところであり、そのために必要になるのが子どもに課題意識をもたせる問いの設定と、各教科の特質に応じた「見方・考え方」である。

「見方・考え方」とは、各教科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方で、それらを働かせて学習の対象となる物事を捉え、思考するプロセスにおいて視点・考え方も相互作用的に豊かになっていくとしている。（『学校教育におけるSDGs・E S Dの理論と実践』から引用）つまり、問いを設定することでその教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせることが可能になり、テストに出るから覚えなさいという一方的な投げかけでは思考する過程には至らないといえる。疑問や課題意識をもち、情報を収集し、整理・分析し、まとめ・表現するという探究的な学習の過程では、各教科の「見方・考え方」を働かせていくことが必要となる。この探究を支えるプロセスが「探究的な見方・考え方」であり、各教科の見方・考え方を総合的に働かせるとともに特定の教科の視点だけは捉えきれない広範な事象を多様な角度で俯瞰して捉えることとしている。探究的な学習を展開するためには各教科内で完結する学びではなく、教科等のつながりを重視した教科横断的な視点でのカリキュラムが必要となる。

総合的な学習の時間と市民科

「探究的な見方・考え方」を働かせた学習は、主に学習指導要領第5章「総合的な学習の時間」に位置付けられている。品川区では、特別の教科道徳・特別活動・総合的な学習の時間を統合した独自の教科「市民科」となる。市民科は、単元毎のねらいを達成するための5つのステップがあり、把握→認識→習得→実践で構成される。例えば、単元名「いろいろなあいさつを自分からしていこう」では、①把握『どうしあいさつが必要なのか』②認識『あいさつをした方もされた方も気持ちがよいことに気付く』③習得『先生又はグループであいさつの練習をし、課題解決に向けた具体的な対処方法や技能を体験的な学習を通して習得する』④実践『自分から進んであいさつできるかな』ワークシートを活用し（あいさつができたなら色を塗る）日常実践につなげる。⑤深化『単元を始める前と後の、進んであいさ

つをする自分の変容に気付く』という流れで学習をする。本単元は特別の教科道德と関連が深い事例である。次に、総合的な学習の時間としての事例は、単元名「品川博士への道」で、品川区の伝統文化について調べて発表する活動を通して、自分たちの住んでいる町の文化や伝統を大切にすることができることをねらいとしている。①把握『品川の歴史や伝統文化への興味・関心をもち、自分の知識について認識を確かめる』②認識『昔からの文化や伝統的なものは多くの人に認められ受け継がれてきた価値あるものであることを理解する』③習得『地域の歴史や伝統文化について調べ、理解する』④実践『日常で地域の伝統文化にふれ、よさを確かめる』⑤深化『学習をふりかえり、自分の言葉でまとめる』となる。市民科の特徴は、内容の理解に留まらず、学んだことを日常生活の場面で実践するところまで落とし込むところである。また、実生活から問いを見だし、自分で課題を立てるなど、学習過程の面でも市民科と総合的な学習の時間は共通する部分も多いと考えている。

④ 授業計画と準備状況…教育支援の方針をもとに、「自分がいつ、何をどのように行うのか」具体的な実践や行動に落とし込み、来年度以降の授業計画と準備状況を明確に記述する。	ページ No	5
具体的な工夫のキーワード	E S Dカレンダー（各教科等の関連を明らかにした年間指導計画）	

はじめに、各教科等の関連を明らかにした年間指導計画（E S Dカレンダー）を作成する。

4年生 年間指導計画 例

教科領域		10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語							
算数							
理科							
社会		地域で受け継がれてきたもの					
市民科			品川博士への道 ○自分たちの住んでいる町の文化や伝統を大切にすることができる		命の大切さ ○自分の命を支えてくれるものへの感謝しながら一生懸命生活することができる		
英語							
音楽			音楽今昔 ○生活の中から生まれた多様な音楽に親しむ		わたしたちの表現		
図工							
体育							
家庭							

年間指導計画で市民科を軸に各教科との関連を明らかにし、学んだことが他の学習場面で活用されるよう見通しをもつ。市民科「品川博士への道」と関連し、音楽科では「音楽今昔」のなかで終業式の校歌斉唱に合わせ、校歌の歌詞から探究的な学びを実施する。社会科で学んだ資料活用の方法を生かして

まとめながら、歌詞と地域のつながりについて調べ、どのように歌いたいか思いをもつ。

課題設定から、まとめ・表現までの過程を以下にまとめた。

ページ No

6

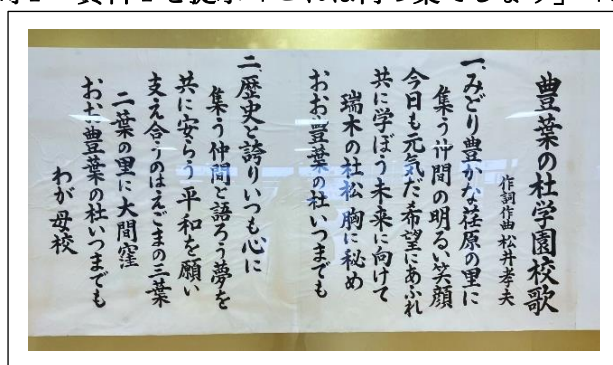
- ①課題設定…調べてみたい内容を見つける
- ②情報の収集…インターネットで情報を収集する
- ③整理・分析…ロイロノート思考ツールを用いる
- ④まとめ・表現…調べた内容をロイロノートで共有する

ICT…ロイロノートアプリの活用

①課題設定…調べてみたい内容を見つける

はじめに、子どもが校歌について興味関心をもち、歌詞の内容をもっと知りたいと思う「問い」の発問を用意する。昨年度に校歌の歌唱指導をした時の事例を交えて述べる。

発問1 資料1を提示「これは何の葉でしょう」「歌詞のなかから探してみよう」



※資料1 荳胡麻の葉 (Wikipedia より引用)



資料1を提示すると、たいていはアジサイと返ってくる。確かに似ているが、実はシソ科の一種で荳胡麻の葉である。「これは何の葉でしょう」という問いは興味関心を引くねらいがあり「歌詞のなかから探してみよう」は、歌詞をよく読んで思考を働かせるねらいがある。子どもはここで校歌と関係があることに気づき、「荳原?」「えごま?」と返ってくる。

「荳原」とは何かを調べてみると、荳胡麻が生い茂る野原のことを指す。荳原という地名は、8世紀なかばからあり、武蔵国全図（江戸後期）のなかには荳原郡と示されている。武蔵国とは、品川・大田・目黒区の全域と千代田・港・世田谷区の一部である。徳川幕府が編纂した「新編武蔵風土記稿」には荳胡麻の由来が記され「古え武蔵野の内にてこの地は荳草を多く植し処なればかくいえりとも言い伝う」から、荳胡麻の栽培がさかんに行われていたことが分かる。

子どもに荳原の由来を簡単に話すと、荳胡麻とは何かという疑問が浮かんでくる子どももいる。荳胡麻とは何でしょうという問いに答えられる子どもは以外と少ないので、資料2を提示する。

発問2 資料2を提示「荳胡麻は何に使われているのでしょうか」

※資料2 荳胡麻油



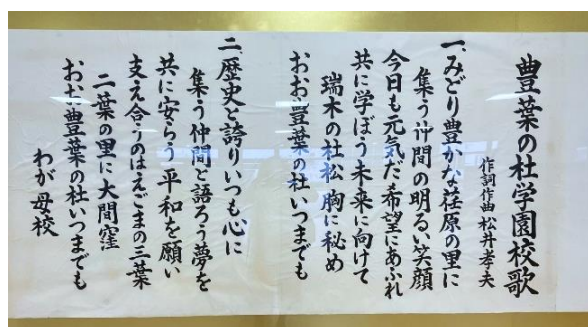
資料2を見せると、多くの子どもが「スーパーで見たことがある」と答える。荳胡麻油として自分達の身近にあったとわかれると親近感をもつようである。昔は明かりとして使用されていた例を話すと「へえーっ」と関心をもつ子どもが多い。

「アジサイのような葉っぱからどうやって油を搾るのか」「明かりとして使用していたのはいつの時代だろうか」と発展していくことが可能である。

ページ No	7
--------	---

○校歌の歴史～統合された4校の校歌、緑豊かな地域～

荏原や荏胡麻のことが分かったあとにもう一度校歌を歌うと、明らかに子どもの歌声が変化する。これは、曲想と旋律、歌詞との関係を感じ取ろうとしていることに他ならない。例えば冒頭部分「みどり豊かな荏原の里に集う仲間の明るい笑顔」の旋律はゆったりとなめらかである。作曲者はなぜこのように書いたのかと子どもに聞くと、「荏胡麻の緑が広がっている様子を表したかったから」と返ってくる。「では、豊かな緑がどこまでも広がっているように声を遠くまで響かせるつもりで歌ってみよう」「そのためにはまず何に気を付ける？」など歌唱表現につなげていくと歌声がみるみる変わってくる。



発問3「豊葉の杜学園は、4校の小中学校が統合してできた学校であることは知っていますか」

1番の歌詞の中盤、瑞木の杜松の部分になると歌うことをいったん止めて、上記の発問をする。すると、たいていの子どもが知っていると言え、なかには統合された4校の小中学校の名前を答える子どももいる。歌詞には各校歌の言葉が一節ずつ使われ、どこに

載っているか探してみようと投げかけると、まず出てくるのが「杜松小学校」である。それが出ると次々と「現在は杜松ホームという高齢者施設になっている」と教えてくれたり、「瑞木とは何だろう」と質問したりしてくる子どもが増えてくる。「瑞木とはみずみずしい若木のことだよ」と答えてしまっていたが、瑞木とは何か、そもそも杜松とは何だろうと問題提起をするのもおもしろい。

改めて1番を歌うと、最後の歌詞「おお豊葉の杜いつまでも」が深みを帯びてくる。また、1番と2番の間奏も荏胡麻の葉が風に揺れている様子や、豊葉の杜学園ができるまでの長い歴史を表しているかのように聞こえてくる。

このように歌いながら進めていくと、2番冒頭「歴史と誇り」についても味わい深く感じられる。なかには大真面目に「誇りは埃だと思っていた」という子どももいて驚いてしまった。歌詞に出てくる語句の意味を分からないまま疑問ももたずに歌ってしまうのは、その曲のもつ魅力に気付くことができないと感じている。おそらく興味関心がない、分かりにくい、どのように調べたらよいか分からないというのが原因一つであろう。学習への意欲を高める手段として、疑問をもつ、調べる、知るといった一連のサイクルを通すことで、曲想と旋律などの音楽の構造や歌詞等の関連が明らかになり、歌うことも楽しくなるということを実感できるようにすることが大切である。

②情報の収集 ICTの活用～ロイロノートスクールを使用しインターネットで収集する～

調べ学習をする上で、活用したいツールがインターネットである。品川区では、児童生徒に一人一台のiPadを配付している。今回は、その中のロイロノートスクールというアプリを使用する。利点は、アプリ内の思考ツールを用いると各事項の関連が視覚的に明らかになり、自分や友達の調べた内容をまとめて共有することができる点である。思考ツールに調べたい内容を一枚ずつ書いてカードを張り、そのカード上に収集した情報を各自でまとめる。その情報を全体で共有しながら、整理・分析をすることができる。

準備…アプリ内に参考資料や URL を張り付けたカードを子どもに送る。

ページ No

8

参考資料

○Youtube 品川公式チャンネル品川ネットTV

しながわ土地の記憶～荏胡麻の原 荏原～

○統合された4校の歌詞
(杜松小学校、大間窪小学校
荏原第三中学校、荏原第四中学校)



○豊葉の杜学園の沿革



○品川区の地図

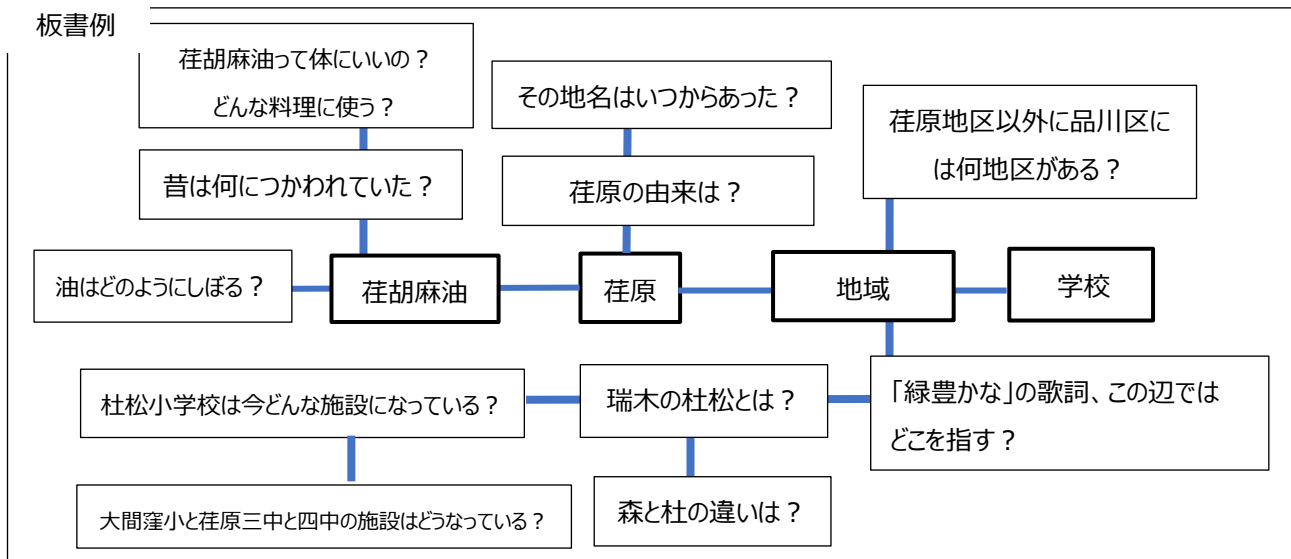


張り付けたページの URL から映像資料を見ることも可能。その他はロイロノートの検索機能を使って調べる。各資料は取り出すことができ、例えば地図に調べたことを記入して自分なりにまとめることができる。

③整理・分析…板書やロイロノート思考ツールを用いる

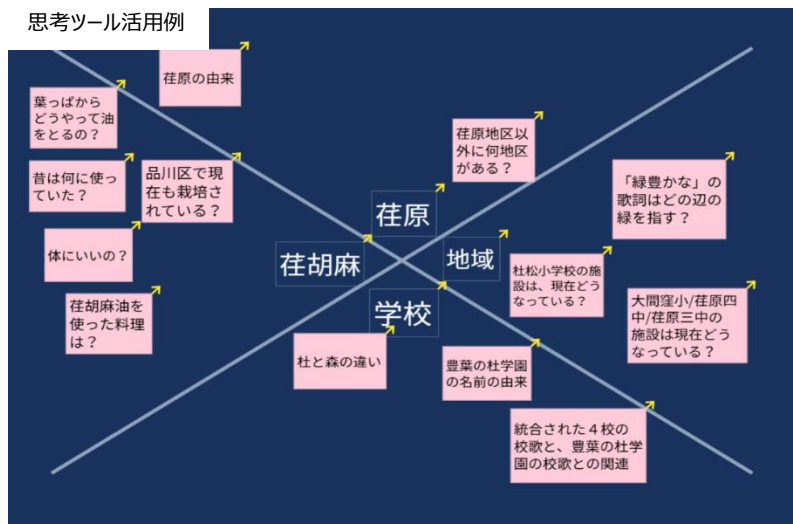
まずは、子どもから出てきた疑問をコンセントマップ（言葉をマップ上に並べて線でつないだ図）形式で簡単に板書し、各事項の関連を示す。

板書例



次に、ロイロノートスクールの思考ツールに、各分野に沿って調べたい内容を書いてカードを張る。

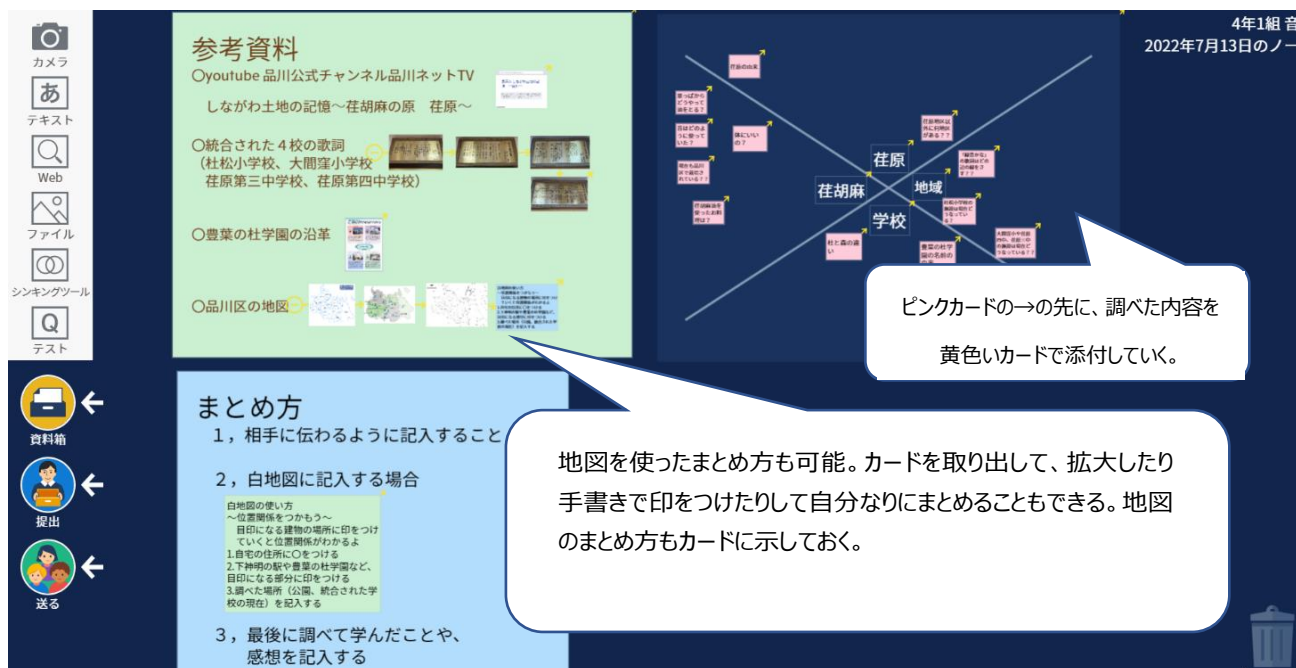
思考ツール活用例



思考ツールを用いると、左記のように各自のカード内容が画面上に反映される。どんな疑問があるのか、自分と似た疑問をもった人は誰か等すぐに分かり、同じ疑問をもった友達と一緒に調べることにも可能である。このカードに並行して調べた内容をつなげ、情報をまとめていく。

子どものiPad画面には以下のように表示される。

子どもの iPad 画面



④まとめ方・表現

まとめ方

1, 相手に伝わるように記入すること

2, 白地図に記入する場合

白地図の使い方

～位置関係をつかもう～

目印になる建物の場所に印をつけていくと位置関係がわかるよ

- 1.自宅の住所に○をつける
- 2.下神明の駅や豊葉の杜学園など、目印になる部分に印をつける
- 3.調べた場所(公園、統合された学校の現在)を記入する

3, 最後に調べて学んだことや、感想を記入する

まとめ方については、相手に伝わるように書くことを前提とする。まとめ方を工夫することで、例えばイラストを加えて可愛くしよう等自分なりのまとめ方を創ることの楽しさも味わうことができる。また、読み手側に立って自分の思考を整理しまとめていくことで、各教科で培った「見方・考え方」を最大限に働かせることができると考えている。

終わりに

教科横断的な学習とE S D教育は具体的にどのように授業で行っていけばよいのか疑問であったが、いきなり難しいことから始めるのではなく、できることから始めることが持続可能なポイントであると感じている。E S D教育は、理解だけでなく行動の変革を求めている点が大きい。つまり、授業者自身が自分の授業を通してどのような行動の変革を子どもに求めるのかをしっかり見据えることが重要である。私は、子どもが生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わるようになってほしいと捉えている。校歌を教材とした探究的な学習を行った後、次は子ども自身が好きな音楽を歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の活動に加え様々な楽しみ方を広げていくことを願っている。

参考文献

- ・「図解 近現代日本音楽史～唱歌、校歌、応援歌から歌謡曲まで～」田中健次 著
- ・「学校教育におけるSDGs・ESDの理論と実践」 奈良教育大学ESD書籍編集委員会 編著
- ・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」文部科学省
- ・「学校発・ESDの学び」 手島利夫 著
- ・「学級経営は問いが9割」 澤井陽介 著
- ・「市民科指導の手引き」 品川区教育委員会
- ・「品川区立学校教育要領」 品川区教育委員会
- ・「わたしたちの品川」 品川区教育委員会

参考映像

- ・YouTube 品川公式チャンネルしながわネット TV「品川音頭リニューアル！」
- ・You Tube 品川区公式チャンネルしながわネット TV「しながわ土地の記憶～荏胡麻の原荏原～」

引用資料

- ・品川区地図 1,みんなの行政地図より引用
2,品川区役所～地域センター、区民集会場～より引用
3,白地図 白地図専門店フリーサイトより引用